

■ 企業・団体協賛

株式会社 山秀木材
医療法人 真生会
エーザイ
株式会社 大阪屋ショップ
川田ニッティンググループ
日医工 株式会社
(一社)シニアサポート北陸
(株)1万年堂出版
国吉光徳保育園
学校法人国際学園 星槎国際高等学校 富山キャンパス
川田工業株式会社
株式会社 andUS
むらかみ小児科アレルギークリニック
(弁)兼六法律事務所
日本海ガス株式会社
特定非営利活動法人 子どもの権利支援センターぱれっと
武田物流システム
福光運輸株式会社
(有)土遊野
医療法人 光ヶ丘病院
株式会社丸圓商店
はっぴーママ富山版
株式会社ハートビートライフ・オカ
オカヘルスアップクラブ
有限会社石黒工業所
オダケホーム(株)南支店
鷹栖建工株式会社
株式会社 宮本工務店
高岡向陵高等学校
公益社団法人こども財団 上田真理
富山女性政治塾
富山県精神科医会
有限会社 森田不動産
富山県公認心理師協会
社会福祉法人マーシ園
Meiji Seika ファルマ
とやまアルペン乳業 株式会社
医療法人社団 三医会 三輪病院
株式会社 クルサー

サンダーバーズ
株式会社 ヒューマン・サポート
特定非営利活動法人 市民活動サポートセンターとやま
庄川温泉観光ホテル株式会社
株式会社 船藤鉄工所
株式会社 松本建材
株式会社 ライフサービス
有限会社 グリーン商事
野口営農組合 たんぼの学校
はちどり BANK@ とやま
長沢自動車総合センター
菓子工房 queue
有限会社 池田建築設計事務所
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
総合カレッジ SEO
中部観光
とやまチャイルドライン愛ランド
ひみつカレー
カフェゴッコ
スーパーセンターしまや 砺波店
株式会社 ル・ソレイユ
一般社団法人 HAT
親と子のリレーションシップほくりく
ハマデン
株式会社 立業社
株式会社 北川電機商会
北陸内観研修所
ポン・クラージュ
株式会社 長田組
富山県 BBS 連盟
富山県図書館を考える会
ジェイエスコーポレーション株式会社
大和リース株式会社 富山営業所
日の出屋製菓産業株式会社
福野家守舎
富山保育サービス社フレーベル館
株式会社 広貫堂
南砺市・砺波人権擁護委員協議会 富山地方法務局砺波支局

■ 個人協賛

荒牧 重人 神口 敦 圓谷 雪絵
永井 文 野本 有沙 藤田 千恵
森 透 山本 紘次 他

■ 応援・協力

南砺市ヘルスボランティア連絡会 とやま子どもの権利条約ネット
富山国際大学(大西 央利子 木田 泉 篠島 杏奈 松原 美鈴 浦澤 愛理 鈴木 優梨)
高岡向陵高等学校(伊東 結咲(当時2年) 澤田 麻結(当時2年))
曾祢 定男 山田 浩輔

フォーラム開催呼びかけ団体:子どもの権利条約ネットワーク

主催 子どもの権利条約フォーラム2020in南砺実行委員会

FAX 0766-55-2799 MAIL crcf2020@npo-palette.org HP http://npo-palette.org/crcf2020



共催 南砺市

後援 富山県、富山県教育委員会、富山県人権擁護委員連合会、となみ衛星通信テレビ株式会社、はっぴーママ富山版、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、北陸中日新聞、朝日新聞富山総局、親と子のリレーションシップほくりく

子どもの権利条約フォーラム2020in南砺

なんとキッズ ライツ フェス

報告書



もくじ

- フォーラムを終えて
- 催し物【ほのぼのマルシェ】
- プログラム
- 開催地南砺市のとりくみ
- 分科会報告
- 実行委員名簿
- 子ども実行委員会



■ フォーラムを終えて

実行委員長 小神昌彦

2020年11月14日、15日。この両日は、1993年から続く子どもの権利条約フォーラムにおいて「新たなかたち」を実現した日となりました。



実行委員会が立ち上がった当初、新型コロナウイルスが猛威をふるう日本を誰も想像していませんでした。新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底した対策、オンライン開催などの用意など、コロナ禍における対応を一丸となり考えました。それでも開催前は、「申込状況が全体的にあまり増えていない」と心配もされました。しかし、当日は当初想定していた延べ1500人をはるかに超える、延べ2800の方に来場いただいた大会となりました。基調講演・分科会のオンライン参加者を含めると約3000人となります。開催地南砺市はもちろん、富山県内各所、全国各地からたくさん参加していただき、「子どもの権利」についてみんなで考えた2日間となりました。

コロナ禍という厳しい条件の中で、できることは何か。大変、難しい判断をいくつもしなければならない状況がありました。その中でも、子どもの権利条約を一人でも多くの人に知ってもらいたい。その思いひとつで、「縁日のように、親子連れがふらっと立ち寄って、遊びながら、子どもの権利条約に触れることができる」というコンセプトのもと、準備を進めておりました。実際に当日を迎え、そこにあったもの、それは「笑顔」でした。

親子連れに喜んでもらうにはどうすれば良いか。知ってもらうためにどうすれば良いか。開催地南砺市の有志の協力のもと、「子どもの権利条約」を理解し、賛同する仲間をつくり、その結果、親子連れで楽しむことのできるワークショップや、キッチンカー、子育て相談ブース、各種物販など多様な出展者を募ることができました。当日は、手作りおもちゃのワークショップで作ったおもちゃを手に会場の内外を笑顔で走り回る子どもたち、それを笑顔で見守る親御さんたち。ベビーカーを押しながら会場の雰囲気だけで笑顔になる家族連れ。県内の子育て支援を紹介する展示ブースを食い入るように見て写真におさめる方々。

子どもの権利条約が何の為に、誰のためにあるのか、改めて実感できるフォーラムとなりました。

基調講演にて登壇いただいた、尾木ママの講演も素晴らしいものでした。柔らかい言葉で厳しい現状に触れる。この条約の大切さと、なぜ広まらないのかというもどかしさを丁寧に伝えていただきました。また、子ども実行委員とのシンポジウムにおいても子どもたち一人一人の発言に真摯に向き合われる姿に感動を覚えました。この記念すべきフォーラムにお越しいただいたこと感謝しかありません。子ども実行委員の子どもたちにとっても貴重な経験となったかと思います。

尾木ママの基調講演はフォーラムとしては初の試みとして団体向けのオンライン配信を行いました。こちらも好評をいただいております。実際に現地に向かうことができなくとも、全国大会に参加できる仕組みに取り組むことができました。オンライン配信は、これからも取り組んでいただきたいです。

分科会においては、8分科会と、これまでより数こそ少なかったものの全ての分科会において定員を超える結果となっております。分科会の会場外からオンラインで参加されている方もいらっしゃいました。

「子どもの権利条約を広める」これは、全ての方の命題であると思っております。

まずは一人でも多くの人に知ってもらう。この為に何をすれば良いかという考え方を今後も大切にしていかなければなりません。そして、「子どもの権利条約」を知ってもらうだけでなく、「子どもの権利条約」があることが前提である世界になることを祈念いたします。

実行委員長 室谷清乃



【自分を救えるものが子どもの権利条約であってほしい】

ある子ども実行委員の子が、テレビ局に取材を受けた際に話してくれた言葉です。

私は小学校5年生の時に子どもの権利条約に出会い、以降（子どもの権利条約）に約11年間携わらせていました。この経験はとてもマイノリティな経験で、社会に多くいる子どもたちのためを思って私ができることってあるのだろうかと日々悶々としていました。悶々としていたなかで、今年の子どもの権利条約フォーラムを富山県南砺市させていただくこととなりました。フォーラム2日間を終えた時の高揚感、そして前述の子ども実行委員の言葉でこのフォーラムをやり切った、本当に良かったと確信しました。改めてですがフォーラムにかかわってくださった皆さんに本当に感謝申し上げます。

■ 基調講演

尾木直樹氏（尾木ママ）



コロナ時代を子どもとともに生きる～子どもの権利条約を羅針盤に～

〈フォーラムの前に届いたメッセージ〉

「子どもの権利条約」、耳慣れないかな。

すべての子どもが平等にもつ権利について定めた条約なんだ。

新型コロナ時代を生き抜く無限のパワーを与えてくれる、力強い味方だよ。

『基調講演』

尾木ママの基調講演では、今を生きるわたしたちに向けメッセージをいただきました。学校教育で「子どもの権利条約」について教えていない日本の状況に触れ、これは「条約違反」であり、周知する必要があると熱く語っていました。コロナ禍において、顕著に現れる子どもの権利が守られていない状況。一人ひとりが「子どもの権利条約」を知り、それに基づいた行動変容を起こすことが必要です。今、問われているのは、子どもと大人がどのようにパートナーシップをとれるかということ。ピンチはチャンス！この、コロナの時期を共に乗り越え、子どもの権利条約を羅針盤とし、アフターコロナの時代に向けて動き出すことが求められています。

『シンポジウム』

尾木ママと子ども実行委員16名によるシンポジウムでは、活発な対話が行われました。子どもたちは、「条約を知っていることが当たり前にならないといけない」「学校の授業で条約について学ぶ時間を作ってほしい」「権利を学んで嫌なことをイヤと言えるようになった」などの意見が聞かれました。尾木ママは、「もっと、積極的に子どもの権利条約をPRしてほしい。子どもたちには、フォーラムを機会にさらに考えを深めてほしい。」と意見を述べられました。

2009年実行委員長 明橋大二



なぜ南砺市で、子どもの権利条約フォーラムが開かれることになったのか？

令和元年8月1日、田中市長より、私が政策参与を委嘱された時、最初の依頼は、「子どもが育ちたいまちを作りたい」というものでした。「子どもを育てやすいまち」というのは自治体のキャッチフレーズとしてよく聞かれます。それも大事ですが、それはあくまで大人目線。そうではなくて、子ども自身が「このまちで育ちたい」と思えるまちを作りたい。

それを聞いた時、私の頭に真っ先に浮かんだのが、ユニセフが世界中で取り組んでいる事業「子どもにやさしいまちづくり」です。子どもの権利条約の精神が具現化されたまちのことです。

子どもが、虐待やいじめ、差別などを受けることなく、自分に自信を持って、自分らしく個性を生かして育つことのできるまち。遊ぶこと、学ぶこと、休むことが保障され、学校やまちのあり方について、子どもの意見がちゃんと取り入れられるまち。

それは、SDGsの掲げる「持続可能な社会」とぴったり重なるものです。

そんなまちづくりのきっかけとして、子どもの権利条約フォーラムを南砺市で開催することを提案したところ、行政、民間、多くの人の賛同を得て、こんな素敵なお祭りが実現しました。これは、ドラマの序章に過ぎません。ワクワク、ドキドキが止まらない！子どもも大人も幸せな社会を、これから皆さんと一緒に作り上げていきましょう！

■ プログラム

令和2年11月14・15日の秋晴れの日に、南砺市福野文化創造センターへリオスで「子どもの権利条約フォーラム2020in南砺 なんとキッズライツフェス」が開催されました。会場への来場者、全国からのオンライン参加者が集い、約3000人がこのフォーラムに参加しました。開催地南砺市はもちろん、富山県内各所、全国各地からたくさん参加していただき、「子どもの権利条約」がたくさんの人を繋げた2日間となりました。

1日目 11月14日(土)

開会式(ヘリオスホール) 13:00～

- ・オープニングアクト 富山ダルク
- ・開会挨拶 実行委員長：小神昌彦
南砺市長：田中幹夫
- ・メッセージ 富山県知事：新田八朗
- ・2009年から2020年へ～大人になったわたしからのメッセージ～
実行委員長：室谷清乃
- ・子ども実行委員会紹介

基調講演(ヘリオスホール) 13:30～

- 講師：尾木直樹氏(尾木ママ)
「コロナ時代を子どもとともに生きる～子どもの権利条約を羅針盤に～」

シンポジウム(ヘリオスホール) 15:15～

子ども実行委員 ×尾木直樹氏



2日目 11月15日(日)

分科会

午前の部 10:00～12:00
午後の部 13:00～15:00

エンディング 15:00～15:30

スキヤキ巨大人形隊&トウマラッカとパレード

閉会式(ヘリオスホール) 15:30～

- ・子ども実行委員会あいさつ
- ・南砺市教育長あいさつ：松本謙一
- ・子どもの権利条約フォーラム2021 in かわさきからメッセージ
- ・閉会挨拶 実行委員長：小神昌彦
室谷清乃



■ 尾木直樹先生(尾木ママ) 基調講演 「サテライト会場からのレポート」

～射水市サテライト会場にて～

新しい生活様式に右へ倣えで、射水市内でもリモートにより南砺市のヘリオスとつなぎ、「尾木直樹氏の基調講演」を拝聴した。今回の射水サテライト会場の開催は、今年9月に発足したばかりの、いみず女性ネットワークの若手が中心となり実現。

参加者はほとんどが初体験で開場前からドキドキワクワク！

いざ、壁一面の大型スクリーンに尾木氏が登場すると皆一堂に集中。講演が進むにつれ尾木ワールドにどっぷり、臨場感は多少物足りないながらも尾木氏の人柄は十分に伝わってきた。参加者の中には「子どもの権利条約」は聞いたことはあるが内容はよく知らず子どもにも大人にも理解を広げるべきである。日本と外国の教育のあり方には大きな違いがあり学習の仕方が自由になると、今の日本では学習の修得がこれまで以上に低くなる恐れがあるのではないか、義務教育までは今まで通り学習させるべき。

教育のあり方は国によって異なり自國のことしか知らなかったが、これからは興味をもって情報に耳を傾けたい。笑いもあり、わかりやすかった。などの貴重な意見を頂いた。そして、サテライト会場の成功に尽力を頼った縁の下の力持ちさんに感謝を申し上げるとともに、今回の南砺市での開催にあたり、実行委員会、関係者の皆様には大変なご苦労の連続だったのでないかと思います。ありがとうございました。

いつの日か、射水市でも開催出来ないものかと密かに鬱憤を燃やしている方も少なくないのでは。

●サテライト会場申し込み

1	射水市母子寡婦福祉連合会
2	子どもともにネットらいつ 東村山
3	和泉に公的子どもオンブズパーソン制度をつくる会
4	認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
5	国際子ども権利センター(シーライツ)
6	子どもの権利条約総合研究所 荒牧重人
7	種部恭子
8	子どもの権利条約関西ネット
9	川崎市中原地区地域教育会議 但野文子
10	とちぎ子どもの権利条約ネットワーク
11	NPO法人 NEXT CONEXION
12	中野謙作
13	特活 ACE
14	子どもの権利条約ネットワーク

子どもからの発信 ーわたしも言いたい！語り合いたい！オンラインでつながる各地の子どもからー

主催 子どもの権利条約ネットワーク

宮城県: 石巻市子どもセンターらいつ「子どもまちづくりクラブ」 栃木県: とちぎ子どもの権利条約ネットワーク
東京都: 東京シユーレ 神奈川県: 川崎市子ども会議、川崎区地域教育会議子ども委員会、中原区地域教育会議子ども委員会
富山県: なんとキッズライツフェス 愛知県: こどもNPO
大阪府: 子ども情報研究センター「子ども編集部はらっぱ」、関西子どもの権利ネットワーク「子ども会議チーム」
愛媛県: NEXT CONEXION



「活動していく悩むこと」というテーマでは、「小学生メンバーが少ない。」という悩みが出ました。すると「北陸3県で地域フォーラムをやっているので、3年に1回チラシを配って、メンバー募集をしている」といったメンバー募集の方法のアイデアのほか、「自分の手でまちを変えられることがおもしろいと思った」「活動に参加して、友だちができた」「子どもの権利について知ることができた」「学校ではできないことができた!」など活動に参加してよかったですと共有しました。

特別ゲストとしてパリから参加したOECD 教育局の田熊さんから「新型コロナの中、どんな学校がいま必要か」という質問には、「先生じゃない人が学校に関わる機会があるといい」「休校になったことで安心している子どももいる」「教員養成の仕組みを変えてはどうか?いまは学校がありきになってしまっていると思う。」など多くの意見が出ました。

どうしたら子どもの権利を実現できるかについて話し合い、「学校でも家庭でもないコミュニティで声を受け止めることが大切」「選挙の投票率も少ないので、政治が若者の声を聞く必要がある。」「キャンペーンで出すだけでなく、その後が大切!」と「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」だけで終わらせず、伝えていくことの必要性について意見がありました。

■ 分科会報告

子育てハッピーアドバイス～子育てがラクになるコツ教えます～

主催 明橋大二氏 南砺市PTA連絡協議会

南砺市PTA連絡協議会主催のA分科会は、明橋大二先生を講師に迎えて開催されました。子育て世代が悩んでいる内容に焦点を当てて講演をいただき、日常の子育てと権利条約とのつながりについても触れ、「子どもの権利条約」を身近に感じることができました。より多くの親御さんに、権利条約を知ってもらうきっかけになったと思います。

～アンケートより～

- ・「子どものできることを認めてあげる」という見方を思い出しました。親も子も頑張っていて「それでいい」という気持ちを大切にしたいと思いました。
- ・いいところ、わるいところを含めて認めてあげるということに気づけました。
- ・大人にも子どもにも「あせらず、いまのままでよい」という内容の講演会をしていただきたいです。
- ・子どもの権利条約と子どもたちの気持ちについて学ぶことができました。自分の出来ることから、子どもの権利条約について広めていきたいです。



子どもの安心・自信・自由の権利 “すべての子どもに安心・自信・自由のけんりを”

主催 富山CAP 会場 スタジオM 時間 10:00～12:00 対象 おとな

参加者 11名(事前申し込み4名/当日新規参加者7名) スタッフ7名 参加のきっかけ チラシ、FB、知人、その他

《当日の分科会の内容とふりかえり》

- ・当日はおとな向けCAPワークショップを実施。子どもへの暴力を防ぐには、その子どもを孤立させないこと。その為に周囲のおとなが子ども視点を持ち、子どもの話を聴き、気持ちを否定せず受け止める。子どもの立場に立った行動の選択肢を子どもと共に考える必要がある。
- *CAPでは子どもは「安心して、自信をもって、自由(選択の自由)に生きる権利を持っていること。子どもの本来の持っている問題解決力を信じ働きかける(エンパワメント)。
- *ロールプレイを通して、NO(イヤと言っていい) GO(その場から離れていい) TELL(信頼できる人に相談する)という具体的な対処方法を提案。



《参加者の感想から～》

- ・「あなたは大切な人」という人権意識の大切さ
- ・「～してはいけない」ではなく「～してもいい」「～できるんだ」という提案
- ・子どもの話、気持ちをちゃんと聴いてやれる(傾聴)大人の存在の大切さ
- ・今の大人が子どもの頃、あまり大事にされてこなかった
- ・温かい雰囲気で学べて有意義な時間だった
- ・CAPを子どもの学校で、日本中の子どもや大人に知ってほしい
- ・人権意識、人権教育まだまだ時間がかかると思うが、変わらなければと思う



以上 少人数の参加ではありましたでしたが「子どもの権利条約フォーラム」でCAPを実施できて本当に良かったと思いました。

外国人も富山県民!～わたしたちはここで生きている～

主催 アレッセ高岡



アレッセ高岡の分科会のテーマは「外国にルーツを持つ子どもの権利～文化・宗教・人種・国籍・言語の違いを超えて～」。参加者は会場とオンラインを合わせて50名でした。

外国にルーツを持つ高校生のファシリテーター2人の進行で、過去・現在・未来の3つの時間軸に焦点を置き、違いや権利について、自分の実体験や考え方などを交えてさまざまなディスカッションをしました。

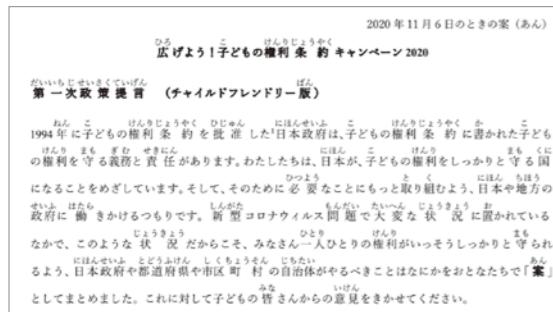
今回のように外国ルーツの子達が、自分の思いを周りにいる大人にぶつけるチャンスというのは、なかなかありません。何か思うことがあっても、理解してもらえないのではないか?という不安から、思いを「声」に出すことを諦めている子が多いと思います。気持ちは声に出さないと伝わらないとは言いますが、今回の分科会は外国ルーツに関わる子どもと大人、それぞれの立場の思いを知るとてもいい機会だったと思います。

子ども達がこうして前に出て、自分たちの思いを発信していくというのは、国際化が進んでいる日本社会の中で、一本の柱になるのではないでしょうか。これからも未来が楽しみで仕方ありません。

(アレッセ高岡青年部・清水)

子ども政策から求めること—CRCキャンペーン政策提言チームの検討を踏まえて

主催 広げよう!子どもの権利条約キャンペーン委員会



分科会E「子ども政策に求めること」では、子どもの権利が包括的に保障されるための土台となる「子ども基本法」制定に向けて、「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」実行委員会の政策提言チームが作成した「第一次政策提言案」について説明し、事前に集めた子どもたちの意見の共有や参加者間での意見交換を行いました。オンラインで開催し、南砺本会場の他、各地のサテライト会場や自宅から42人が参加しました。

●提言案に対する子どもの意見

「子どもの権利を知っている人が少ないからもっと知らせないといけない。」「子どもが主体だから、子ども自身が理解し、評価ができるようなツールが必要。」「子どもがSOSを感じたとき、助けを求められる仕組みがあるということ、そのことを子どもが知っているということが重要。」など、他にもたくさんの意見が寄せられ、その一部を共有しました。

●分科会の様子

参加者は、これらの意見から多くの学びを得ると共に、海外での子どもの権利保障の仕組みなどについて話しました。この分科会を通じて、子どもたちが、今の社会をどのように捉え、何を願っているか、を伺い知ることができ、子どもたちの声を聴きながら提言活動をしていくことの重要性を改めて感じる機会となりました。

不登校の子どもの多様な学びを保障するために、今できることから考えよう!

主催 小澤 妙子 (Switch代表) H P <https://www.switch-toyama.org/>



1. Switchとは

子どもの権利条約フォーラム2020in南砺で2日目午後に「不登校の子どもの多様な学び～学ぶ権利を保障するために～」と題して分科会を担当させていただきました。

Switchは2019年5月19日に設立した不登校の子どもと親の会になります。活動歴は1年半と若い団体ですが、不登校の子どもとその家族が横の繋がりを深め社会的に孤立することを防ぐと共に、学校以外の学び場作りを目的として富山市を中心に親の会、不登校を考える会、学び場や居場所作り、講師を招いたイベント等幅広く行っています。活動には県内各地から150名を超える方々にご参加をいただいております。学校に行かなことを選択した子どもから学校に行きたいのに行けずに部分登校（保健室登校含む）をしている子どもまで幅広く対応をしております。

2. 分科会を担当した背景

富山県には約1600人の不登校の児童・生徒がいると言われています。普通教育確保法が施行され「学校は休んでも大丈夫」という風潮が少しずつ広がりつつあるとはいえ、地域格差や教員格差が大きく、不登校の子どもの教育を受ける権利が保障されているとは全くいえない状況です。子どもが日々成長していく中で、孤独に不登校と向き合い勉強の遅れ等を不安視する多くのご家族と接する中で、富山県内においても個々に合わせた多様な学びの普及が急務であることは言うまでもありません。この分科会を機に、富山県内において多様な学びを実現するための第一歩をしたいと考え、今一度、多様な学びとは何かを参加の方々と勉強する機会を設けました。

3. 分科会の詳細

分科会の実施形態はコロナ禍での開催であることからハイブリット形式を採用し、会場及びオンライン合わせて約60名（会場36名満席、オンライン24名程度）と多くの方々にご参加いただきました。分科会は前半にSwitchの活動紹介とミニ講演2本、後半は参加者を交えて質疑応答やフリートークを行いました。

ミニ講演1では、喜多明人先生（早稲田大学名誉教授・多様な学び保障法を実現する会共同代表）に「子どもの学び権利と学校外の多様な学び～より良い学びの場を求めて～」と題して普通教育確保法の成立後の動きを中心に、全国の取り組みや文科省の動向等について貴重なお話をいただきました。

ミニ講演2では、森昭憲先生（富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 子どもの心の外来）に「学校に行かない子どもと会って分かる今の学校に行かない訳」と題し、医師の立場から様々なデータを元に富山県の不登校の子どもたちの現状についてお話をいただき、小児科で行ったオンライン授業希望調査に関する情報提供もありました。

質疑応答やフリートークでは「中間支援機構の設立に向けてできることは何か?」「学童等の日中空いている箱物を不登校の子どもの多様な学び場としてはどうか?」という意見等が出され、そこから話が膨らみました。オンラインのコメント欄には終始書き込みが絶えませんでした。

4. 分科会を終えて

富山県は他の県より10年遅れていると言われることが多いですが、やると決めたらやる県民性だという意見もあり底力に希望を感じました。意識改革には10年必要という喜多先生のお言葉に愕然としましたが、方向性さえ定まれば、多様な学びに舵を取ることができるのではないかと期待を残す分科会となりました。

校則から考える子どもの権利

主催 種部恭子（産婦人科医・富山県議会議員）&校則を考える高校生makiさん

参加者 30名



妊娠した高校生こそ学ぶ機会を与え高校を卒業すべき、性別違和を持つ子どもが制服・髪型問題で学ぶ機会を奪われるのは人権侵害、という視点でスタートした分科会。高校生makiさんの鋭く素晴らしい問題提起を受けて、子どもから大人まで参加者全員のグループワークで子どもの権利から考えた校則を作っていました。出来上がった校則は…

<制服・髪型について>

学校にレンタル服屋さんを作り毎日自由に選んで着てよし。制服でも私服でもOK、髪型は個性豊かに。先生はオシャレでスッキリ生徒の手本に。

<持ち物>

自分にとって必要なものを自分で考えて持ってくること。学校に櫛を持ってきててもOK（持って行っちゃいけないと言わてるんだ…）。学校に誕プレ持ち込みOK。

<恋愛・交際>

部活内での恋愛禁止をOKに。アルバイトOK。人を好きになることは誰にも止められないから後悔がないように愛を育むように。性教育を行い子どもたちを最後まで見守ります。

校則を定め生徒に守らせる意味はどこにあるんだろう？内容はもちろん、校則や制服を設けるかどうかを含めて子どもたちが参加して決めるのがあるべき姿ではないか？と感じ取れた分科会でした。

■ 子ども実行委員会

子ども実行委員会のあゆみと子どものつぶやき

2020年4月～7月【子ども実行委員の募集】

「子ども実行委員を募っていいものか・・・」コロナウィルスが猛威を振るう中、私達は募集のチラシを配るかどうかさえ悩んでいました。この様な状況で募集をすることで子どもの権利条約にマイナスの印象を持たれるのではないか、そもそもフォーラムそのものが開催できないのではないか。会議もそんな話しづかりで思うように進まず、苦しいスタートとなりました。そんな中、臨時休校が終了し6月から学校が再開しました。コロナによって友達とも会えない数ヶ月・遅れを取り戻す為に夏休みも無くなり、過密な学校のスケジュール・子どものストレス・親のストレス・子どもへの虐待が増加しているというニュース・・・

「こんな時だからこそやる価値があるのではないか」「集まれる回数は限られるかもしれないけれど、出来ることを精一杯やろう」そう決めてからは急ピッチで準備を開始。6月の後半にはチラシを完成させ、各学校に配布を行いました。ようやく歯車が動き出した瞬間でした。この状況とタイトなスケジュールの中、集まったのはなんと23人、前回より人数は少ないかもしれません、そこには数以上の大きな喜びがありました。

2020年8月【第1回子ども実行委員会】



8月に初めて子どもたちが集まっての顔合わせがありました。本来であれば少年自然の家や外遊びを通して距離を縮めるのですが、コロナの影響で急遽会場が変更になるなど、室内のみでの活動となりました。午前中は明橋先生より子どもたちに「あなたは、とても大切な、かけがえのない存在なんだよ」「人のことを傷つけていい人なんてこの世に1人もいないし、あなたは傷つけられてもしかたのない人では、決してない」など大切なことを話してもらいました。その後CAPのプログラムでロールプレイングを実施し、実際にイヤな場面に遭遇したらどうするのか?どう対応するのか?などを考えると共に、「自分の意見を伝える大切さ」をみんなで学びました。

お昼を食べて午後からは似顔絵を書くゲームなど、顔と名前を覚えてもらい、雰囲気が良くなったところで「あったらいいなこんな学校」というテーマでグループに別れて、ワークを行いました。「お金がもらえる学校」「蛇口からコーラが出てくる学校」というユニークなものから「校則がない学校」「いじめのない学校」「制服のない学校」「テストがない学校」など今直面している悩みが出てきた場面もありました。みんなは発表後「そんな学校あるわけないよね~」と漏らしていましたが、明橋先生から

つぶやき
ある日、学校で配布されたポスター(チラシ)から伝わってくる楽しそうな雰囲気が、とても大きくて興味が湧いたというのが役員(応募)をしようと思ったきっかけでした。



2020年9月～10月【縁日!?新しいフォーラム】

第2回の子ども実行委員会からは初回が室内だけの活動になってしまい、のびのび活動できなかったの反省し、外遊びなども積極的に入れ、どの様な時間で1日過ごすのかを子ども同士で決めて活動していました。「すぐ遊びたい!」「やることやってから遊びたい!」など様々な声が上がりましたが、その度にみんなで話し合い、時にはバインダーを手に公園へ飛び出し、鬼ごっこしては会議、鬼ごっこをしては会議を繰り返したり、子どもの権利条約を1条ずつ書いた40枚の大きなカードを外にカルタのように並べ、走って取り合ったりするなど、遊びながらも真剣に子どもの権利条約を学んでいました。子どもたちに今回のテーマが「親子がふらっと立ち寄れるフォーラム」という事を伝えると「お祭りにしよう!」と盛り上がりいました。

最初は全く子どもの権利条約の関係のない雰囲気で「綿菓子やりたい!」「射的!すごろく!」と話が進んでいき、ハラハラしながら見していましたが、楽しみながら子どもの権利条約が学べるような仕掛けをつくればいいのではないかという話になり「綿菓子

をつくっている間に権利のクイズを出して解いてもらおう」「射的的を倒したら、裏に権利が書いてあってそれを説明しよう!」「すごろくで止まるマスに権利の説明や例題を書こう!」など様々な案が出て、縁日をイメージした発表に決まりました。

シンポジウムでは子どもの権利条約を学ぼうと思ったきっかけや権利条約を学んでの心境や環境の変化、大人に聞きたいこと、伝えたいことをゲストである尾木先生に聞いてもらうことになりました。みんなが今までの様な事を感じているのか、どう変わったのかなど意見を出し合いました。自らのいじめの体験なども語る子どもがいるなど、より一層子どもの権利条約の大切さを感じる時間となりました。縁日にこだわりだした子どもたちが予定していた日数では時間が足りず「もう1日やろう」と回数が増えていく実行委員会に焦りも感じながら、子どもたちの自主性が芽生えたことを非常に嬉しく思った大人たちでした。

この権利条約を知ってほしいと思うので、同じ目標に向かって色々な人たちと、色々なことができたらいいなと思いました。

あつまりでは、ケイドロをしてみんなと仲良くなったり、子どものけん利じょうやくについて話し合ったり、フォーラムの準備をしたりしました。とても楽しくけん利を学べました。

「楽しさを出せばいいんだろう」「興味を持ってもらうにはどうすればいいんだろう」と、考えることが勉強になりました。

2020年11月【フォーラム本番】

特に印象に残ったのは、尾木先生がはじめに言った「ピンチはチャンス」という言葉です。このピンチを乗り越えるためにオンライン型も広がりました。学校でもデジタルとアナログが両立すれば、学ぶ環境がより多様化し、一人一人に合わせたやり方が生まれると思いました。

日本は、子どもの権利条約を取り入れるのが遅くて、なきないと感じました。そして、教育の技術などがトップクラスのデンマークへ留学に行きたいと思いました。

シンポジウムでは、学校の校則のことについて話しました。尾木ママは私たちがシンポジウムで言ったことを分かってくれ、うれしかったです。

しかしの原こうには、漢字がいっぱいあって、よくわからなかったけど、一緒にしかいをした中学生が教えてくれたので、うまく話せました。

自分たちで店を出す大変さも知れたり、人を教えることなどについても学べました。みんなとのきずなも深まり楽しかったです。

11月はいよいよフォーラム本番。1週間前に最後の実行委員会が開催され、最後の仕上げをして本番に望みました。初日の講演では尾木先生の巧みなトークに子どもたちも笑いながら前のめりで聞き入り、問い合わせられた子どもの権利条約の質問には大きな声で回答しました。「これだけ子どもの権利条約に詳しい子どもがいるなんて富山の先生たちは大変ですね笑」と尾木先生を驚かせました。シンポジウムでは「学校の先生になる人はしっかりと子どもの権利条約を学んで欲しい!」という力強い発言には会場から拍手が起きました。「子どもの権利条約を学んだことでいじめられている友達の力になれるようになった」など学んだ事での変化を語る子どもたちの姿は、聞いていた大人たちに子ども権利条約の大切さを十二分に伝えたのではないでしょうか。

2日目の縁日がテーマの発表では、最初はお客様がなかなか来てくれなくて子どもたちは不安になっていました。その時、第1回目の実行委員会のアンケートで「退屈だった。」と書き、ずっと本を読んで喋らなかったあの子が「ここに来てもらえるように看板をつくって、会場をぐるぐる回って宣伝してくる!」と友達と会場を飛び出していました。外からは大きな声で「縁日やってまーす!是非来てください!」と叫ぶ彼の声が聞こえていました。そんな彼らの活躍もあって、1人また1人と会場には人が集まりました。

つくづく実行委員の子どもたちは、自分の考えを発信する力があると感心した。

雑談コーナーでは、自分のことや学校のことなども気軽に話せる場にできたら良いと思っていたようにできました。そして、1つでも笑顔が見られて、1人でも笑顔にできて、とっても嬉しい気持ちになりました。

子どもの権利条約を知っている人がもっと深くしていくことが、広がることの第1歩になると思いました。



ステージ発表の音読チームで、劇のセリフを考えるのを短時間でやらなきゃいけなかつたので、よりみんなと協力できたと思います。当日は、はずかしがらず、はっきり言うことができたのでよかったです。

しゃてき担当として、当たった的の裏に書いてある「条約」を説明した。知らない人にわかりやすく説明することはとても難しかった。

宣伝を頑張りました。声をいっぱい出したので、その後に飲んだレモネードがとっても美味しいかったです。

ユース実行委員となり、11年越しに自分たちで開催するフォーラムに参加し、人の繋がりの大さや自分の言葉を発信し伝える事の大さを実感させられた。

学校のみんなにも子どもの権利条約について知ってほしいと思い、校内放送で、条約についてと、フォーラムで学んだことを伝えました。また、みんなに楽しく条約について、もっとしってもらうために、カルタを作成しています。5年生から、委員会が始まるので、人権委員会も作りたいなと考えています。

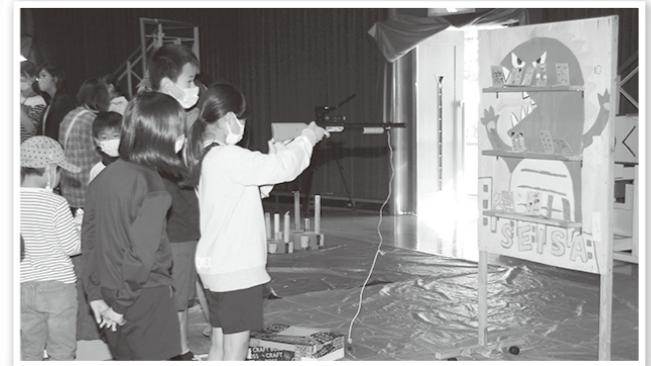
「ピンチだからこそ、改革ができる」まだまだピンチな状況が続く今だからこそ、これから教育の在り方を考え、変えていかなければなりません。それを気づけたことが、自分にとって、とてもよかったです。

気がつけば行列になっている場所もありました。「どう?すごいでしょ?」と彼はドヤ顔で笑っていました。結果、終わってみれば子どもたちの発表は大盛況で幕を閉じました。これまでの子どもの権利条約フォーラムでは「難しそう」とハードルが高く、ほとんどの子どもに興味を持ってもらえませんでした。子どもたちに権利条約を知ってもらえませんでした。広まっていきませんでした。「もっと多くの子どもに子どもの権利条約を知ってもらいたい」今年の子ども実行委員が考えた新しい子どもの権利条約フォーラム。成功だったのか、どうだったのか。あの行列と、最初は退屈だったと答えた彼の大きな声と会場を走り回る姿が答えだったような気がしています。

最後の本物のお祭りさながらの音楽とパレードでのグランドフィナーレは、子どもの権利条約フォーラムの新しい幕開けだったのではないでしょうか。

子ども担当 福原渉太

子どもたちの感想の全文はこちらから
みることができます。



「子どもがつくる子どもの権利条例」はこうやってつくられた! そしてキッズ ライツ フェスで活動発表!

2015年秋

「子どもが条例をつくることはできないのですか?」

室谷清乃実行委員長(当時高校2年生)より提案
この時の子ども実行委員は09年を一期生とし、
その後3年ごとに募集し3期生まで

2016年春

「そもそも『条例』とは何か?
勉強を始めた。」

先生は、元小杉町町長 土井由三さん

2017年夏合宿

返ってきた意見を取り入れ
練り上げる。前文完成。
来年募集する
子ども実行委員4期生の
意見を取り入れて完成とする。

嶋悠里実行委員長(当時高校2年生)が引継ぐ

2016年夏合宿

大まかな骨格が決まる。
他の実行委員の意見も取り入れ
たいから全員に意見を募る。

山田夏葵実行委員長(当時高校3年生)を中心に考える

2018年5月

子ども実行委員4期生募集し
新たな仲間が増える。

小松真実行委員長(当時高校2年生)から招待状が届く

4期生を交えついに完成!!
条文は6つになりイラストも付けた。

新実行委員も頑張った。

2019年8月
南砺市長に面談。
2019年12月
黒部市長に面談。

佐伯椿季実行委員長(当時小学6年生)はじめ
4期生参加

2020年夏

新子ども実行委員を募集、
フォーラムに向け知恵を絞る。

子ども実行委員長 能登蒼一郎(小学4年生)
ユース実行委員長室谷清乃(大学4年生)

2019年春
県庁にて記者会見。
「子どもがつくる子どもの権利条例」
発表。

大学生になった室谷清乃、
高校を卒業したばかりの嶋悠里が同席。

2020年11月

子どもの権利条約フォーラム
2020 in 南砺
キッズ ライツ フェス

「子どもがつくる子どもの権利条例」

～これは「子ども」のための条例であることを忘れない～

前文

「子どもと大人がいい関係を築くことのできる社会にしたい。」「子どもの気持ちを大人に伝えやすい環境をつくりたい。」そう思い、子どもが子どものための条例を作りました。そして、この条例を、子どもから大人へのメッセージとしました。

- ・子どもにとってよい環境をつくり、育て、支える。
- ・どんな理由であれ、絶対に子どもに暴力を振るわない。
- ・子どもの意見を最後まで聞く。
- ・子どものやりたいと言ったことを応援する。
- ・大人の意見を子どもにおしつけない。
- ・大人は子どものお手本になる。

この6つが、この条例を通して大人に伝えたいメッセージです。大人に本心を伝えられる子どもが増えてほしい。悩んでいる子どもが減ってほしい。子どもにとって素晴らしい社会になることを心から願っています。

とやま子どもの権利条約ネット 子ども実行委員一同

※「わたし」のところに自分の名前を入れて読んでみよう

1 いじわるはやめて

みんな、いやな言葉をいわれたり、勝手に入られたり、無視されたり、けられたりされたら悲しいよね。相手にも「心」があるよ。だから、いじわるはゼッタイにダメだよ。いじわる、キレイだ!



2 いじめられた時は

もし、いじめられたら、「解けつけよう」かんがえ決方法を考え、やってみるのがいいんだ。でも、それができなかつたら、お父さんでもお母さんでも、学校の先生でも、信頼できる(話せる)人に話してみてね。大人は助けを求めるまで待っていてください。



3 言ってもいいんだよ

みんなにも言いたいことはあると思うんだ。「わたし」の話を言える場所があるし、聞いてくれる人がいるよ。そしてなんでも言つていいんだよ。でも、相手がいやなことは言つたらダメだよ。「わたし」だけ言ってても、相手は楽しくないよね。だから、相手の話を聞いてほしいんだ。自分の思いを伝えるのは、話すだけじゃないよ。書いたら、せつめいたりして説明したりして伝えていいんだよ。



4 気持ちを考えてみて

「わたし」に困ったことがあったら、誰かに助けてほしいよね。そんなときは誰かが「わたし」を助けてくれるよ。それと同じで、相手も助けてほしいときがあるんだ。だから困っている人がいたら、助けてあげてほしいんだ。そして、お父さんやお母さんの気持ちも考えて聞いてほしいんだ。



5 みんなちがってみんない

メガネをかけている人、みんなより背が高い人、みんなちがうひと人はみんなちがうよね。それと同じように、障害を持つている人見た目がちがう人、ちがう国の人。そんな人たちを仲間はずれにしないでね。「わたし」と同じ人なんてなかなかいないんだ。



6 自分らしく

やりたいこと、参加したいことは、どんどん自由にやっていいんだよ。でも、人の迷惑になると思うことはしないでね。考え(悪い)や、やりたいことを奪われることはないよ。



■ 催し物

「地球にやさしい」をコンセプトとした、《ほのぼのマルシェ》がフォーラムと同日開催されました。フォーラム特別版として、《なんとブース》が企画され、開催地富山県南砺市をはじめ県内の子どもにかかるわるい団体がマルシェに出店。また、マルシェ内の特設ミニステージでは、ライブイベントや発表が行われ、出演者も観客も笑顔でいっぱいです。コロナ禍のため、歓声はなし、マスクで口元は見えなくても、温かく、柔らかな空気が流れました。ほのぼのマルシェの参加団体は50団体を超え、来場者だけでなく、団体同士の交流が行われました。

展示コーナーには31団体が出展しました。廊下一面に張り出され、たくさんの方にご覧いただきました。写真に収める方、情報交換をされる方など、人と人が交流を図ることもできました。



クラフト体験コーナー

国立立山少年自然の家から、自然の材料をつかったワークショップが開かれました。自分の好きな形、好きな色を選び、オリジナル作品を作りました。



こどもギャラリー「my campus, free canvas..-ここにある私のいろ -」

開催地南砺市福光のアートギャラリー「NOSE art garage」と、子どもたちの作品が創り出す特別な空間がフォーラム限定でオープンしました。世界につなげた作品たちが展示されました。



ミニ四駆

富山県BBS連盟の協力のもと、ミニ四駆のコースが設置されました。ミニ四駆を組み立てたり、貸し出し用で遊ぶ子どもたちで盛り上がりました。



ほのぼのマルシェ×なんとブース出展者

- ・一般社団法人Ponteとやま
- ・POえがおプロジェクト
- ・OKAグループ
- ・子どもの権利支援センターぱれっと
- ・コミュニティハウスひとのま
- ・星槎国際高等学校
- ・だれでもハウス“めぐみ”
- ・寺子クラブ・寺子こどもえん
- ・土遊野
- ・富山YMCA
- ・南砺市児童クラブ連合会
- ・はぐれ雲
- ・もうひとりにはさせないよ!
- ・よってカフェ
- ・リボンfromとやま

その他、たくさんの飲食・物販で賑わいました。



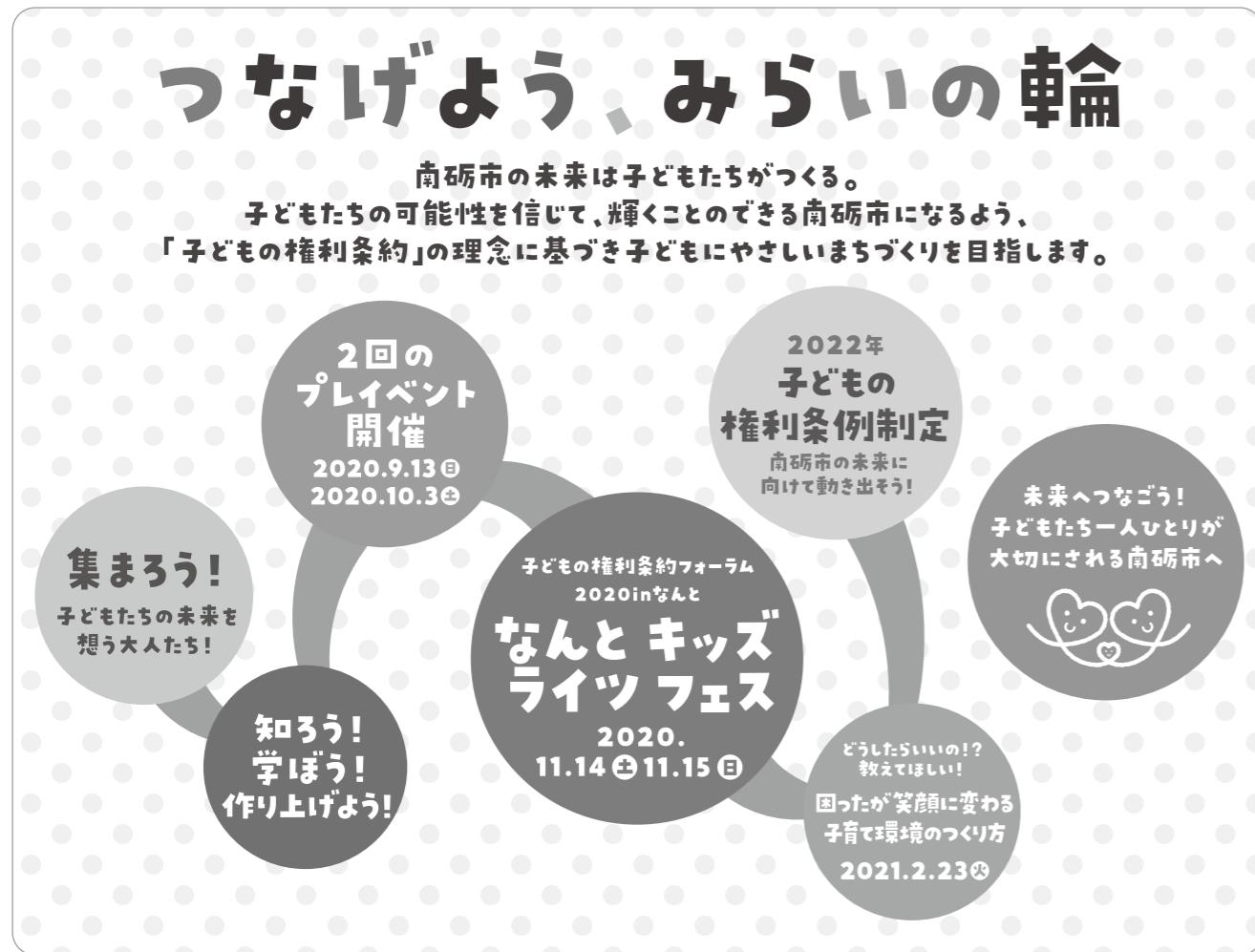
展示出店者

- ・とやま大地の会
- ・はあとぴあ21
- ・Switch (不登校の子どもと親の会)
- ・NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち
- ・とやまチャイルドライン愛ランド
- ・アレッセ高岡
- ・富山CAP
- ・富山県リハビリテーション病院
　　子ども支援センター
- ・富山県図書館を考える会
- ・カラフルサロン
- ・一般社団法人HAT
- ・親と子のリレーションシップほくりく
- ・総合力レッジSEO
- ・となみ総合支援学校
- ・わらび学園
- ・適応指導教室いおう
- ・富山県人権擁護委員連合会
- ・with+
- ・公益社団法人 となみ青年会議所
- ・スタジオじゅう
- ・子育て支援 寺子クラブ
- ・笑顔がいっぱい 寺子こどもえん
- ・ガールスカウト富山県連盟(南砺市)
- ・森のようちえん まめでっぽう
- ・ガイア 自然学校
- ・荒井学園 高岡向陵高等学校
- ・だれでもハウス“めぐみ”
- ・つぶらな ひとみ
- ・ゆい社会福祉士共同事務所
- ・レインボーハート富山
- ・ふくい「非行」と向きあう親たちの会



■ 開催地 南砺市 (共催)

子どもにやさしい南砺市であるため2022年に南砺市子どもの権利条例の制定を目指します。



「こどもが育ちたいまちを作りたい」

南砺市田中幹夫市長の強い想い。

その想いに明橋大二政策参与が応えました。

「子どもにやさしいまちづくりに取り組みましょう」

こうして、南砺市子どもの権利条例づくりがスタートしました。

より多くの人に「子どもの権利条約」を知ってもらうため、2020年の全国フォーラム開催が決まり、フォーラム実行委員メンバーの皆さんと市職員がアイディアを出し合い、会議を重ねました。

「南砺市のいいモノ・コトを発信したい」

「市外・県外の情報を市民に伝えたい」

「コロナ禍でも笑顔があふれる楽しい一日を作りたい」

たくさんの想いが結実し、とても大きなイベントになりました。

当日は、晴天にも恵まれ、すばらしい二日間となりました！

全国フォーラムの盛会を受けて、2021年は、条例づくりを本格化させ、

2022年に条例を完成させる予定です。

市民のみなさんとともに、南砺市ならではの子どもの権利条例づくりに取り組んでまいります。

■ 実行委員会 ★実行委員長

大人実行委員

明橋 大二	NPO法人子どもの権利支援センターぱれっと	塚原 茗香	保育士
飯田 良智	星槎国際高等学校富山キャンパス キャンパス長	土井 由三	とやま子どもの権利条約ネット
大坪 久美子	NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち	富川 剛	富山県BBS連盟
大家 三穂	オカヘルスアップクラブ	能登 貴史	一般社団法人 なんと未来支援センター 業務執行理事
★小神 昌彦	NPO法人子どもの権利支援センターぱれっと	橋本 順子	富山CAP
小澤 妙子	Switch(不登校の子どもと親の会)	福原 渉太	NPO法人halea 理事長
川田 千明	南砺市教育委員会こども課	向 富士子	スペースよへさ
岸 順子	富山CAP	森 昭憲	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
木下 三喜子	だれでもハウス“めぐみ”	薬師 陽子	高岡向陵高等学校
楠井 悅子	とやま子どもの権利条約ネット	横山 順子	とやま子どもの権利条約ネット
高橋 佳寿江	まなざしなんと	吉川 夕佳	NPO法人 市民活動サポートセンターとやま
種部 恵子	女性クリニックWe! TOYAMA		
成川 正幸	黒部市議会議員		

子ども実行委員

飯田 智之	小学6年 射水市	永田 千尋	小学6年 富山市
石黒 玲依	小学4年 南砺市	中山 ねね	小学5年 射水市
老子 巧真	中学2年 高岡市	崔 素羅	小学4年 富山市
大野 克仁	小学6年 富山市	西田 七虹	小学6年 富山市
大野 佳萌	中学2年 富山市	★能登 蒼一郎	小学4年 富山市
梶原 悠生	小学6年 射水市	松浦 環	小学4年 高岡市
金井 陸	高校3年 富山市	三日市 真朱	中学1年 滑川市
金井 亮	中学2年 富山市	薬師 子龍	中学1年 射水市
金井 日向	高校1年 富山市	山下 蔵之助	小学4年 富山市
紙居 碧衣	中学2年 富山市	山田 結葵	中学3年 富山市
佐伯 椿季	中学1年 中新川郡立山町	結城 春香	高校3年 富山市
高原 啓希	小学5年 富山市	ワン 恵之介スカイラー	小学6年 富山市

ユース実行委員

小松 真	2期生 高知市	萩野 有紀	1期生 富山市
嶋 悠里	2期生 名古屋市	★室谷 清乃	1期生 和歌山市
須賀 奎太	1期生 仙台市	吉野 杏菜	1期生 東松山市
立野 涼香	2期生 名古屋市	山田 夏葵	1期生 富山市
西野 輝希	1期生 東京都	川原 淳	1期生 大阪市

